

山頂から俯瞰する情報通信 ビジネスの複雑なこれから

BTジャパン株式会社
代表取締役社長兼COO

新居崎 俊彦



登山にも通信情報技術の波が

登山は私の趣味の一つで、ここ数年は山岳作家の深田久弥が選んだ100名山踏破を目指していて、家族には申し訳ないと思いながら時間ができると家を後にする。今日も山の中にいる。

山登りがいいのは登りながら一人で自由に物事を考える時間が持てることだ。が、一方で、たとえ一人でない小屋やテントでの仕事から離れたたわいもない会話も楽しい。特にすばらしいのは、山小屋の主人や熟練した登山者からガイドブックに載っていないアドバイスが聞けたときで、仕事で新しい方向性を発見をしたときのような喜びを感じる。

登山をしているときは、もちろん歩いている足元に気を付けなければならない。しかし登り切った頂からは360度の視界が広がり、全てを俯瞰することができる。頂で景色を楽しんだ後の下山途中では、数時間前に自分の足で登った軌跡を振り返ることが可能だ。今や情報通信技術の波がここまで押し寄せていて、GPSと連動した地図がスマホで表示され、手元のスマートウォッチには登山時間、距離、標高、心拍数、消費カロリー、紫外線、温度、風速、天気予報などのデジタル化された情報が携帯通信網を通して、一目で分かるようになっている。